

1. 春の生き物

4月第2週～，配当8時間＋予備1時間

【学習指導要領との関連】B(2)季節と生物 ア(7)(イ)，イ

<p>【単元の目標】 動物を探したり植物を育てたりしながら，動物の活動や植物の成長のようすと季節の変化に着目して，それらを関係づけて，身近な動物の活動や植物の成長と環境とのかかわりを調べることを通して，それらについての理解をはかり，観察などに関する技能を身につけるとともに，おもに既習の内容や生活経験をもとに，根拠のある予想や仮説を発想する力や生物を愛護する態度，主体的に問題解決しようとする態度を育成する。</p>	<p>【単元の評価規準】※ 知①／動物の活動は，暖かい季節，寒い季節などによって違いがあることを理解している。 知②／植物の成長は，暖かい季節，寒い季節などによって違いがあることを理解している。 知③／身近な動物や植物について，器具や機器などを正しく扱いながら調べ，それらの過程や得られた結果をわかりやすく記録している。</p>	<p>思①／身近な動物や植物について，既習の内容や生活経験をもとに，根拠のある予想や仮説を発想し，表現するなどして問題解決している。 思②／身近な動物や植物について，観察などを行い，得られた結果をもとに考察し，表現するなどして問題解決している。</p>	<p>態①／身近な動物や植物についての事物・現象に進んでかかわり，他者とかがわりながら問題解決しようとしている。 態②／身近な動物や植物について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。</p>
--	--	--	--

※各観点の評価は，「1. 春の生き物」「夏の生き物」「秋の生き物」「冬の生き物」「生き物の1年間」を通して計画している。

次	時	指導計画	重点	記録	評価規準（B基準）と評価手法	十分満足できる状況の例	B基準に達していない場合の手立て
単元導入	1 2	春の生き物 ・身の回りの生き物のようすは，1年間でのようすに変わっていくのだろうか。	思		思①／春の生き物のようすについて，予想や仮説を発想し，表現しているかを確認する。（発言・記述分析）	1年間観察する生き物のようすについて，観察の観点や方法，記録することなどを考え，1年間継続して観察するための計画を立てて表現している。	どの季節にどんな生き物を見たことがあるか考えさせる。
第1次	3 4	生き物のようす ・校庭などの生き物はどんなようすだろうか。 観察1 季節と生き物のようす	知	○	知③／温度計を安全に正しく使い，気温や水温を調べているかを評価する。（行動観察・記録分析）	気温や水温を測る際の温度計の使い方を正しく理解し，記録している。	温度計の使い方を練習させる。
第2次	5 6	植物を育てよう ・植物は，季節とともにどのように成長していくのだろうか。 観察2 季節と植物の成長	態	○	態①／植物の成長に進んでかかわり，他者とかがわりながら，植物を育てていこうとしているかを評価する。（行動観察）	ヒョウタンなどの成長に進んでかかわり，他者とかがわりながら，調べたり，これからの成長を予想したりしながら意欲的に世話をしている。	ヒョウタンの実や，実を使った作品などを見せて，栽培への興味を喚起する。
第3次～ つなげよう	7 8 予備	春の記録をまとめよう ・活動 観察した記録カードを整理して伝え合おう つなげよう（日本各地の4月初め）	知	○	知③／春の生き物のようすを理解し，観察記録を整理し，わかりやすくまとめているかを評価する。（記録分析・ペーパーテスト）	春の生き物のようすを理解し，発表するために友達と情報交換をしながら，これまでの観察記録を整理し，わかりやすくまとめている。	何回かの記録を比べることから，春の生き物のようすと，気温や水温の変化との関係を考えさせる。観察記録で不十分な点は，友達の記事などを参考に整理してまとめさせる。
			態	○	態②／春の生き物について，学んだことを学習や生活に生かそうとしているかを評価する。（発言・行動観察）	春の生き物について学んだことを学習や生活に生かそうとし，意欲的にこれからの変化についても考えようとしている。	夏にも，植物や動物のようすを観察することを伝え，身の回りの生き物への興味を持続させる。

2. 天気と1日の気温

5月第2週～, 配当5時間+予備1時間

【学習指導要領との関連】B(4)天気の様子 ア(7), イ

【単元の目標】 天気と気温の変化に着目して、それらを関係づけて、1日の気温の変化を調べる活動を通して、それらについての理解をはかり、観察などに関する技能を身につけるとともに、おもに既習の内容や生活経験をもとに、根拠のある予想や仮説を発想する力や主体的に問題解決しようとする態度を育成する。	【単元の評価規準】 知①/天気によって1日の気温の変化のしかたに違いがあることを理解している。 知②/天気と1日の気温の変化について、器具や機器などを正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果をわかりやすく記録している。	思①/天気と1日の気温の変化について、既習の内容や生活経験をもとに、根拠のある予想や仮説を発想し、表現するなどして問題解決している。 思②/天気と1日の気温の変化について、観察などを行い、得られた結果をもとに考察し、表現するなどして問題解決している。	態①/天気と1日の気温の変化についての事物・現象に進んでかわり、他者とかかわりながら問題解決しようとしている。 態②/天気と1日の気温の変化について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。
--	--	--	---

次	時	指導計画	重点	記録	評価規準（B基準）と評価手法	十分満足できる状況の例	B基準に達していない場合の手立て
単元導入	1	天気と1日の気温 天気と1日の気温にはどのような関係があるのだろうか。	思		思①/1日の気温の変化と天気の様子について予想や仮説を発想し、表現しているかを確認する。(発言・記述分析)	天気によるあたたかさの違いや1日の気温の変化について予想や仮説を発想し、筋道立てて自分の考えを表現している。	晴れの日や曇りの日などのようすの違いを、生活経験やこれまでの学習から思い出し、1日の気温の変化と結びつけるように助言する。
第1次	2 3 4	1日の気温の変化 ・ 晴れの日と、曇りや雨の日では、1日の気温の変化はどのように違うのだろうか。 ・ 観察1 1日の気温の変化	思	○	思②/1日の気温の変化のしかたについて、観察の結果から考察し、表現しているかを評価する。(発言・記述分析)	1日の気温の変化を表したグラフと天気と関係づけて、観察した結果から考察し、表現している。	晴れの日と曇りや雨の日の気温の変化を表した折れ線グラフを使って、差が大きいところと小さいところを比較させる。
			知	○	知②/温度計を正しく扱いながら、天気や1日の気温の変化のしかたを調べ、測定した気温などの結果をわかりやすくまとめているかを評価する。(行動観察・記録分析)	温度計を正しく扱いながら、天気や1日の気温の変化のしかたを調べ、測定した天気や気温を記録し、天気と気温の変化を関係づけてわかりやすくまとめている。	温度計の使い方や気温のはかり方を練習させたり、方眼紙の使い方や折れ線グラフのかき方を丁寧に説明し、記録をグラフ化させたりする。
			知	○	知①/天気によって、1日の気温の変化のしかたに違いがあることを理解しているかを評価する。(記述分析・ペーパーテスト)	天気によって、1日の気温の変化のしかたに違いがあり、太陽の熱や雲と関係があると理解している。	日光によって地面があたたまること、日なたと日かげであたたかさが違うことなどを思い出させ、晴れの日と曇りや雨の日のあたたかさの違いを関連づけるようにする。
			態		態①/天気の様子や1日の気温の変化に進んでかわり、他者とかかわりながら問題解決しようとしているかを確認する。(発言・行動観察)	晴れの日と曇りや雨の日の気温の変化に進んでかわり、他者とかかわりながら、天気や気温を粘り強く調べようとしている。	観察に適した日を選び、決めた時刻ごとに観察できるよう声をかけるとともに、継続して観察できていることを賞賛し、意欲が持続するように支援する。
まとめ～つなげよう	5 予備	まとめノート/たしかめよう/活用しよう つなげよう(あまいくだものや野菜)	態	○	態②/天気と1日の気温の変化について、学んだことを学習や生活に生かそうとしているかを評価する。(行動観察・発言・記述分析)	天気と1日の気温の変化について、学んだことを学習や生活に生かそうしたり、1日の気温の変化のしかたについて予想したりして、行動しようとしている。	天気の様子と1日の気温の変化のしかたについて、どのような関係があったか、ノートの記録などを確認するように助言する。

地面を流れる水のゆくえ

5月第4週～、配当5時間+予備1時間

【学習指導要領との関連】B(3)雨水の行方と地面の様子 ア(7)(イ)、イ

<p>【単元の目標】 水の流れ方や浸みこみ方に着目して、それらと地面の傾きや土の粒の大きさとを関係づけて、雨水のゆくえと地面のようすを調べる活動を通して、それらについての理解をはかり、観察、実験などに関する技能を身につけるとともに、おもに既習の内容や生活経験をもとに、根拠のある予想や仮説を発想する力や主体的に問題解決しようとする態度を育成する。</p>	<p>【単元の評価規準】 知①／水は、高い場所から低い場所へと流れて集まることを理解している。 知②／水の浸みこみ方は、土の粒の大きさによって違いがあることを理解している。 知③／雨水のゆくえと地面のようすについて、器具や機器などを正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果をわかりやすく記録している。</p>	<p>思①／雨水のゆくえと地面のようすについて、既習の内容や生活経験をもとに、根拠のある予想や仮説を発想し、表現するなどして問題解決している。 思②／雨水のゆくえと地面のようすについて、観察、実験などを行い、得られた結果をもとに考察し、表現するなどして問題解決している。</p>	<p>態①／雨水のゆくえと地面のようすについての事物・現象に進んでかかわり、他者とかかわりながら問題解決しようとしている。 態②／雨水のゆくえと地面のようすについて学んだことを学習や生活に生かそうとしている。</p>
---	--	---	--

次	時	指導計画	重点	記録	評価規準（B基準）と評価手法	十分満足できる状況の例	B基準に達していない場合の手立て
第1次	1	<p>地面を流れる水のゆくえ 水の流れと地面の傾きには、どんな関係があるのだろうか。 観察1 水の流れと地面のかたむき</p>	思		<p>思①／地面を流れる水のゆくえについて、差異点や共通点をもとに、問題を見いだすことができているかを確認する。(行動観察・発言)</p>	<p>地面に降った雨水のようすや日常経験をもとに、地面を流れる水のゆくえについて具体的な問題を見だし、自分の考えを表現している。</p>	<p>雨の日に靴がぬれないようにするには、高い所と低い所のどちらを歩くか、どうして、雨水が地面を流れる場所や向きがいつも同じなのかなど、日常・生活経験からの発言を促す。</p>
			態		<p>態①／地面を流れる水のゆくえに進んでかかわり、他者とかかわりながら問題解決しようとしているかを確認する。(行動観察・発言・記述分析)</p>	<p>地面を流れる水のゆくえに進んでかかわり、他者とかかわりながら、そのようすを地面の変化に着目して調べようとしている。</p>	<p>流れる水が集まってくる排水口がどんな場所にあるかなど、特徴的な例を紹介して、水の流れと地面の傾きについての関心を高める。</p>
	2	<p>土の種類と水の浸みこみ方には、どんな関係があるのだろうか。</p>	知	○	<p>知①／水は高い場所から低い場所へと流れて集まることを理解しているかを評価する。(行動観察・記述分析)</p>	<p>水は高い場所から低い場所へと流れて集まることを理解し、水の流れの通り道も、周りの地面に比べて低くなっていることをとらえている。</p>	<p>学校の手洗い場で、観察1と同じように傾きを調べ、蛇口から水を流して、高い場所から低い場所に流れるようすを見せる。</p>
	3	<p>実験1 土のつぶの大きさと水のしみこみ方</p>	思	○	<p>思①／低い場所に流れた水のゆくえについて、土のようすと関連づけながら、根拠のある予想や仮説を発想し、表現しているかを評価する。(発言・記述分析)</p>	<p>低い場所に流れた水のゆくえについて、土の粒の大きさの違いによる粒の間の隙間の違いを発想し、水の浸みこみ方の違いと関連づけながら表現している。</p>	<p>砂場のほうが校庭の地面より低いのに、なぜ水たまりができないのかなど、低い場所でも水がたまらない例を示し、地面のようすへと接続していくようにする。</p>
	4		知		<p>知③／粒の大きさと水の浸みこみ方の違いを調べる実験を、条件制御しながら行い、結果をわかりやすく記録しているかを確認する。(行動観察・記録分析)</p>	<p>粒の大きさと水の浸みこみ方の違いを調べる実験を、条件制御しながら行い、土の上の水についても、土から出てくる水についても、結果をわかりやすく記録している。</p>	<p>土や水の量を同じにする理由を確認したり、土の上の水の変化を見る人、土の下から出る水を見る人というように分担しながら実験を行い、情報を共有させたりする。</p>
第2次	5 ・ 予 備	<p>地面や水とわたしたちのくらし 地面や水は、わたしたちのくらしとどんな関係があるのだろうか。</p>	態	○	<p>態②／水が地面を流れたり、浸みこんだりするしくみと自然災害や土地利用との関係について調べようとしているかを評価する。(行動観察・発言・記述分析)</p>	<p>水が地面を流れたり、浸みこんだりするしくみと自然災害や土地利用との関係について、防災・減災も意識しながら調べようとしている。</p>	<p>学校でバケツ稲づくりを行っていれば、その土を調べたり、プランターではなくバケツを使っている理由を聞くなど、より身近なところから興味づけを行う。</p>

3. 電気のはたらき

6月第2週～, 配当7時間+予備1時間

【学習指導要領との関連】A(3)電流の働き ア(7), イ

<p>【単元の目標】 電流の大きさや向き, 乾電池につないだもののように着目して, それらに関係づけて, 電流のはたらきを調べる活動を通して, それらについての理解をはかり, 実験などに関する技能を身につけるとともに, おもに既習の内容や生活経験をもとに, 根拠のある予想や仮説を発想する力や主体的に問題解決しようとする態度を育成する。</p>	<p>【単元の評価規準】 知①/乾電池の数やつなぎ方を変えると, 電流の大きさや向きが変わり, 豆電球の明るさやモーターの回り方が変わることを理解している。 知②/電流のはたらきについて, 器具や機器などを正しく扱いながら調べ, それらの過程や得られた結果をわかりやすく記録している。</p>	<p>思①/電流のはたらきについて, 既習の内容や生活経験をもとに, 根拠のある予想や仮説を発想し, 表現するなどして問題解決している。 思②/電流のはたらきについて, 実験などを行い, 得られた結果をもとに考察し, 表現するなどして問題解決している。</p>	<p>態①/電流のはたらきについての事物・現象に進んでかかわり, 他者とかかわりながら問題解決しようとしている。 態②/電流のはたらきについて学んだことを学習や生活に生かそうとしている。</p>
---	---	--	---

次	時	指導計画	重点	記録	評価規準 (B基準) と評価手法	十分満足できる状況の例	B基準に達していない場合の手立て
単元導入	1	電気のはたらき 乾電池でモーターを回して, モーターの回り方を調べよう。	思		思①/乾電池とモーターを使ったおもちゃについて, 既習の内容や生活経験をもとに, 根拠のある予想や仮説を発想し, 表現しているかを確認する。(発言・記述分析)	乾電池とモーターを使ったおもちゃについて, 既習の内容や生活経験をもとに, 根拠のある予想や仮説を発想し, 筋道立てて自分の考えを表現している。	3年での電気の学習をふり返るとともに, 事前につくった扇風機を紹介し, しくみや動きを確認する。
第1次	2 3	かん電池のはたらき ・ 乾電池をつなぐ向きと, モーターの回る向きには, どんな関係があるのだろうか。 実験1 かん電池とモーターの回る向き	思	○	思①/回路を流れる電流の向きとモーターの回る向きについて予想や仮説を発想し, 表現しているかを評価する。(発言・記述分析)	乾電池をつなぐ向きを変えると, モーターの回る向きも変わると予想し, 自分の考えを表現している。	乾電池の向きだけが異なる2つの回路を用意し, モーターの回る向きについて考えさせる。
			知	○	知②/簡易検流計を正しく使い, 回路を流れる電流の向きと, モーターの回る向きを関係づけて調べているかを評価する。(行動観察・記録分析)	簡易検流計を正しく使って, 乾電池をつなぐ向きを変えたときの簡易検流計の針が振れる向きや, モーターの回る向きを調べている。	簡易検流計, 乾電池, モーターを正しくつないだ回路を見せ, モーターを回して, 簡易検流計の針が振れることを確認させる。
	4 5	モーターをもっと速く回すには, どうすればよいのだろうか。 実験2 かん電池とモーターの回る速さ	思	○	思②/乾電池2個のつなぎ方やモーターの回り方について, 実験の結果から考察し, 表現しているかを評価する。(行動観察・記述分析)	乾電池2個のつなぎ方を考えていろいろな回路をつくり, 乾電池のつなぎ方, モーターの回り方, 電流の大きさを表に整理しながら表現している。	乾電池1個を使った回路をつくり, もう1つの乾電池をどのようにつなげればよいかを考えさせる。
			態	○	態①/乾電池2個のつなぎ方やモーターの回り方に進んでかかわり, 他者とかかわりながら問題解決しようとしているかを評価する。(発言・行動観察)	乾電池2個のつなぎ方を変えてモーターの回る速さを調べ, 他の児童の結果と比べるなどして, 電気の回路を意欲的に調べようとしている。	いろいろなつなぎ方でモーターの回る速さとの関係を確認して, 他者とかかわりながら調べるよさを感じられるようにする。
	6	直列つなぎのほうが, モーターが速く回るのは, どうしてだろうか。 実験3 かん電池と電流の大きさ	知	○	知①/乾電池の数やつなぎ方を変えると, 電流の大きさや向きが変わり, モーターの回り方が変わることを理解しているかを評価する。(記述分析・ペーパーテスト)	乾電池の数やつなぎ方を変えると, モーターの回る速さが変わることを理解し, 電流の大きさとの関係で説明している。	乾電池1個をつないだ回路や, 乾電池2個を直列や並列につないだ回路などを用意し, モーターの回る速さの違いに気づかせる。
まとめ～つなげよう	7 予備	まとめノート/たしかめよう/活用しよう つなげよう(発光ダイオード(LED))	態	○	態②/電気のはたらきについて学んだことを学習や生活に生かそうとしているかを評価する。(発言・行動観察)	電気のはたらきについて学んだことを学習や生活に生かそうとしたり, 電気の利用の方法を考えたりしている。	電気のはたらきを利用した日常生活の中の具体物を紹介する。

夏の生き物

7月第1週～、配当4時間

【学習指導要領との関連】B(2)季節と生物 ア(7)(4)、イ

【単元の目標】 動物を探したり植物を育てたりしながら、動物の活動や植物の成長のようすと季節の変化に着目して、それらを関係づけて、身近な動物の活動や植物の成長と環境とのかかわりを調べることを通して、それらについての理解をはかり、観察などに関する技能を身につけるとともに、おもに既習の内容や生活経験をもとに、根拠のある予想や仮説を発想する力や生物を愛護する態度、主体的に問題解決しようとする態度を育成する。	【単元の評価規準】※ 知①／動物の活動は、暖かい季節、寒い季節などによって違いがあることを理解している。 知②／植物の成長は、暖かい季節、寒い季節などによって違いがあることを理解している。 知③／身近な動物や植物について、器具や機器などを正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果をわかりやすく記録している。	思①／身近な動物や植物について、既習の内容や生活経験をもとに、根拠のある予想や仮説を発想し、表現するなどして問題解決している。 思②／身近な動物や植物について、観察などを行い、得られた結果をもとに考察し、表現するなどして問題解決している。	態①／身近な動物や植物についての事物・現象に進んでかかわり、他者とかかわりながら問題解決しようとしている。 態②／身近な動物や植物について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。
---	---	--	--

※各観点の評価は、「1. 春の生き物」「夏の生き物」「秋の生き物」「冬の生き物」「生き物の1年間」を通して計画している。

次	時	指導計画	重点	記録	評価規準（B基準）と評価手法	十分満足できる状況の例	B基準に達していない場合の手立て
第1次	1 2	生き物のようす ・春と比べて、生き物のようすは、どのようになっているのだろうか。 観察1 季節と生き物のようす	思	○	思①／夏の生き物について、既習の内容や生活経験をもとに、根拠のある予想や仮説を発想し、表現しているかを評価する。（発言・記述分析）	夏の生き物について、既習の内容や生活経験をもとに、根拠のある予想や仮説を発想し、筋道立てて自分の考えを表現したり、観察計画を具体的に立てたりしている。	春のころの植物や動物の写真を提示したり、春のころの観察記録を紹介したりする。
				態	態①／夏の生き物に進んでかかわり、他者とかかわりながら、春の生き物のようすとの違いを調べようとしているかを確認する。（行動観察・記述分析）	夏の生き物に進んでかかわり、他者とかかわりながら、春の観察経験を生かして、身の回りの生き物のようすを観察し、春のころとの違いを見つけようとしている。	植物の花や若い実、セミの抜け殻など、特徴的な変化のようすを紹介して、夏の生き物を観察する意欲を高める。
第2次	3	植物を育てよう 春にたねをまいた植物は、夏になりどのように成長しているのだろうか。 観察2 季節と植物の成長	知	○	知③／植物の成長のようすを調べ、結果をわかりやすく記録しているかを確認する。（行動観察・記録分析）	ヒョウタンなどを育てて、成長のようすやそのときの気温を繰り返し調べ、以前と比べながら結果を図や言葉でわかりやすく記録している。	教科書の写真や記録カードを使って、観察の観点を話し合わせる。
第3次～ つなげよう	4	夏の記録をまとめよう 活動 観察した記録を整理して伝え合おう つなげよう（日本各地の夏）	知	○	知①②／夏になると、動物が活発に活動し、植物がよく成長することを理解しているかを評価する。（記述分析・ペーパーテスト）	夏になると、動物はより活発に活動し、植物はより成長することを理解し、春のようすと比較しながら説明している。	これまでの記録を見直すようにはたらきかけ、生き物のようすと気温や水温の変化との関係を考えさせる。
				態	○	態②／夏の生き物について、学んだことを学習や生活に生かそうとしているかを評価する。（発言・行動観察）	夏の生き物について学んだことを学習や生活に生かそうとし、意欲的にこれからの変化についても考えようとしている。

夏の夜空

7月第2週、配当2時間

【学習指導要領との関連】B(5)月と星 ア(4)、イ

【単元の目標】 星の明るさや色に着目して、星の特徴を調べる活動を通して、それらについての理解をはかり、観察などに関する技能を身につけるとともに、おもに既習の内容や生活経験をもとに、根拠のある予想や仮説を発想する力や主体的に問題解決しようとする態度を育成する。	【単元の評価規準】※ 知①／月は日によって形が変わって見え、1日のうちでも時刻によって位置が変わることを理解している。 知②／空には、明るさや色の違う星があることを理解している。 知③／星の集まりは、1日のうちでも時刻によって、並び方は変わらないが、位置が変わることを理解している。 知④／月や星の特徴について、器具や機器などを正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果をわかりやすく記録している。	思①／月や星の特徴について、既習の内容や生活経験をもとに、根拠のある予想や仮説を発想し、表現するなどして問題解決している。 思②／月や星の特徴について、観察などを行い、得られた結果をもとに考察し、表現するなどして問題解決している。	態①／月や星についての事物・現象に進んでかかわり、他者とかかわりながら問題解決しようとしている。 態②／月や星について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。
---	---	--	--

※各観点の評価は、「夏の夜空」「4. 月や星の動き」「冬の夜空」を通して計画している。

次	時	指導計画	重点	記録	評価規準（B基準）と評価手法	十分満足できる状況の例	B基準に達していない場合の手立て
第1次	1 2	夏の夜空 ・夜空に輝く星には、どんな違いがあるのだろうか。 観察1 夏の星	態	○	態①／夏の夜空に輝く星に進んでかかわり、他者とかかわりながら、観察しようとしているかを確認する。（発言・記述分析）	夏の夜空に輝く星に進んでかかわり、他者とかかわりながら、夜空に輝く星を観察したり、星に関する神話を調べたりしている。	星や星座に関する話題を紹介して、星についての興味・関心を高めるようにする。
				知	○	知②④／方位磁針や星座早見などを正しく使って、星や星座を観察し、星によって明るさや色に違いがあることを理解しているかを評価する。（行動観察・記録分析・記述分析・ペーパーテスト）	方位磁針や星座早見などを正しく使って、いろいろな星や星座を詳しく観察して、星によって、明るさや色に違いがあることを理解している。

4. 月や星の動き

9月第2週～, 配当6時間+予備1時間

【学習指導要領との関連】B(5)月と星 ア(7)(イ)(ウ), イ

<p>【単元の目標】 月や星の位置の変化や時間の経過に着目して、それらに関係づけて、月や星の特徴を調べる活動を通して、それらについての理解をはかり、観察などに関する技能を身につけるとともに、おもに既習の内容や生活経験をもとに、根拠のある予想や仮説を発想する力や主体的に問題解決しようとする態度を育成する。</p>	<p>【単元の評価規準】※ 知①/月は日によって形が変わって見え、1日のうちでも時刻によって位置が変わることを理解している。 知②/空には、明るさや色の違う星があることを理解している。 知③/星の集まりは、1日のうちでも時刻によって、並び方は変わらないが、位置が変わることを理解している。 知④/月や星の特徴について、器具や機器などを正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果をわかりやすく記録している。</p>	<p>思①/月や星の特徴について、既習の内容や生活経験をもとに、根拠のある予想や仮説を発想し、表現するなどして問題解決している。 思②/月や星の特徴について、観察などを行い、得られた結果をもとに考察し、表現するなどして問題解決している。</p>	<p>態①/月や星についての事物・現象に進んでかかわり、他者とかかわりながら問題解決しようとしている。 態②/月や星について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。</p>
---	--	--	--

※各観点の評価は、「夏の夜空」「4. 月や星の動き」「冬の夜空」を通して計画している。

次	時	指導計画	重点 記録	評価規準（B基準）と評価手法	十分満足できる状況の例	B基準に達していない場合の手立て
単元導入	1	月や星の動き 月や星は、どのように動いているのだろうか。	思	思①/月の動きについて問題を見だし、表現しているかを確認する。(発言・記述分析)	昼間の月のようすや日常経験をもとに、月の動きについて具体的な問題を見だし、自分の考えを表現している。	昼間に見られる月をいっしょに見たり、月を見た経験を話題にしたりして、月の位置や動きに着目できるようにする。
第1次	2 ・ 3	月の動き ・ 月も、太陽と同じように、時刻とともに動いていくのだろうか。 観察1 半月と満月の動き	思	○ 思①/月も太陽と同じように、時刻とともに動くと予想や仮説を発想し、考えを表現しているかを評価する。(発言・記述分析)	月を見た経験などから、月も太陽と同じように東から西へ動くと予想や仮説を発想し、より具体的に自分の考えを表現している。	月や太陽を見た経験を思い出させ、どの位置に見えたか考えさせる。
			知	○ 知①④/方位磁針を正しく使って月の位置を調べ、月は日によって形が変わって見え、1日のうちでも時刻によって位置が変わることを理解しているかを評価する。(記録分析・記述分析・ペーパーテスト)	方位磁針を正しく使って月の位置を調べ、月は日によって形が変わって見え、太陽と同じように1日のうちでも時刻によって位置が変わり、月の形が違っても動きは同じであることを理解している。	観測できなかった時刻の月の位置を、資料や映像教材などを使って補う。
			態	○ 態①/月の動き方について進んでかかわり、他者とかかわりながら問題解決しようとしているかを評価する。(行動観察・発言)	月の動き方に進んでかかわり、他者とかかわりながら、月が見られる位置や時刻、形などに注目して、月の動きを調べようとしている。	観察に適した日を選び、ワークシートなどを用意して観察・記録しやすくするとともに、継続して観察できていることを賞賛し、意欲が持続するように支援する。
第2次	4 ・ 5	星の動き ・ 星も、時刻とともに動いていくのだろうか。 観察2 星の位置やならび方	知	○ 知③/星の集まりは、1日のうちでも時刻によって、並び方は変わらないが、位置が変わることを理解しているかを評価する。(記述分析・ペーパーテスト)	星の集まりは、1日のうちでも時刻によって並び方は変わらないが位置が変わることを理解し、星の位置の目安となる目印を決めて星の位置や並び方を調べている。	建物や電線など、星の位置の目安となるものを決めて、同じ場所から、時刻を変えて観察させるようにする。
			思	○ 思②/星の位置の変化を観察の結果から考察し、表現しているかを評価する。(発言・記述分析)	星の位置の変化を時刻と関係づけて考察し、観察した星や星座の名前、時刻などを具体的に挙げて表現している。	友達の記録カードや教科書の図などをもとに、星の位置が変化していることに気づかせたり、映像教材やコンピュータシミュレーションなどを使って、星や星座の動きを確認させる。
まとめ～ つなげよう	6 ・ 予備	まとめノート/たしかめよう/活用しよう つなげよう(流れ星の正体)	態	○ 態②/月や星の動きについて、学んだことを学習や生活に生かそうとしているかを評価する。(発言・記述分析)	月や星の動きについて、学んだことを学習や生活に生かそうとし、資料を使って月や星を調べたり、観察したりしようとしている。	夜空を見る習慣をうながしたり、プラネタリウムや天文台に出かける機会を設けたりする。

5. とじこめた空気や水

9月第4週～, 配当6時間+予備1時間

【学習指導要領との関連】A(1)空気と水の性質 ア(7)(イ), イ

<p>【単元の目標】 体積や押し返す力の変化に着目して、それらと押す力とを関係づけて、空気と水の性質を調べる活動を通して、それらについての理解をはかり、実験などに関する技能を身につけるとともに、おもに既習の内容や生活経験をもとに、根拠のある予想や仮説を発想する力や主体的に問題解決しようとする態度を育成する。</p>	<p>【単元の評価規準】 知①／閉じ込めた空気を押すと、体積は小さくなるが、押し返す力は大きくなることを理解している。 知②／閉じ込めた空気は押し縮められるが、水は押し縮められないことを理解している。 知③／空気と水の性質について、器具や機器などを正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果をわかりやすく記録している。</p>	<p>思①／空気と水の性質について、既習の内容や生活経験をもとに、根拠のある予想や仮説を発想し、表現するなどして問題解決している。 思②／空気と水の性質について、実験などを行い、得られた結果をもとに考察し、表現するなどして問題解決している。</p>	<p>態①／空気と水の性質についての事物・現象に進んでかかわり、他者とかかわりながら問題解決しようとしている。 態②／空気と水の性質について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。</p>
--	--	---	---

次	時	指導計画	重点	記録	評価規準（B基準）と評価手法	十分満足できる状況の例	B基準に達していない場合の手立て
単元導入	1 ・ 2	とじこめた空気や水 ・閉じ込めた空気にはどんな性質があるのだろうか。	思		思①／閉じ込めた空気の性質について問題を見だし、表現しているかを確認する。(発言・記述分析)	閉じ込めた空気を使った活動や日常経験をもとに、閉じ込めた空気の性質について具体的な問題を見だし、自分の考えを表現している。	袋に空気を入れると、袋が膨らむことを確かめ、空気存在を意識できるようにしたり、空気鉄砲の筒の中には空気が入っていることを確認したりする。
第1次	3 ・ 4	とじこめた空気のせいしつ ・活動 空気でっぼうで玉を飛ばしてみよう 閉じ込めた空気を押したとき、空気はどのようになっているのだろうか。 実験1 とじこめた空気をおしたとき	思	○	思①／閉じ込めた空気を押したときについて、予想や仮説を発想し、表現しているかを評価する。(発言・記述分析)	空気鉄砲を使った活動から、空気を押したとき、体積がどうなるかを予想し、それを調べる具体的な方法について、自分の考えを表現している。	多様な発見を認めるとともに、「それは空気がどうなっているのかな」などと問いかけ、閉じ込めた空気の性質を調べる意欲をもたせる。
第2次	5	とじこめた水のせいしつ 水も、空気と同じように、押し縮めることができるのだろうか。 実験2 とじこめた水をおしたとき	知	○	知③／空気を閉じ込めた器具を安全に正しく使って、閉じ込めた空気の性質を調べているかを評価する。(発言・行動観察)	注射器が倒れないように気をつけて力を加えるなど安全に使い、注射器の目盛りに着目したり、石鹼水の泡を入れたりして、空気の体積の変化を詳しく調べている。	空気を閉じ込めた袋を押したとき、どうなったか、空気鉄砲を押したとき、玉はどうなったかを思い出させる。
まとめ～ つなげよう	6 ・ 予備	まとめノート／たしかめよう／活用しよう つなげよう(東京ドームの屋根)	知	○	知①／閉じ込めた空気を押すと、体積は小さくなるが、押し返す力は大きくなることを理解しているかを評価する。(記述分析・ペーパーテスト)	閉じ込めた空気を押すと体積が小さくなり、強く押して体積が小さくなるほど、押し返す力は大きくなることを、図などを使ってまとめている。	空気の体積が小さくなったことを見やすくするために、石鹼水の泡などを使って説明する。
まとめ～ つなげよう	6 ・ 予備	まとめノート／たしかめよう／活用しよう つなげよう(東京ドームの屋根)	知	○	知③／閉じ込めた水を押したときについて、結果をわかりやすく記録しているかを確認する。(行動観察・記録分析)	閉じ込めた水を押したとき、体積がどうなるかを、空気を押したときと比較しながら調べ、記録している。	注射器の目盛りに注目させ、水の体積がどうなるかを確認させる。
まとめ～ つなげよう	6 ・ 予備	まとめノート／たしかめよう／活用しよう つなげよう(東京ドームの屋根)	思	○	思②／閉じ込めた水を押し縮めることができるかについて、実験の結果から考察し、表現しているかを評価する。(発言・記述分析)	閉じ込めた水を押し縮めることについて、実験の結果から、空気の場合と比較して考察し、自分の考えを図や文を使って表現している。	閉じ込めた空気は押し縮められることを思い出させた上で、水は押し縮めることができないことを、再度実験しながら確認する。
まとめ～ つなげよう	6 ・ 予備	まとめノート／たしかめよう／活用しよう つなげよう(東京ドームの屋根)	知	○	知②／閉じ込めた水は、空気と違って押し縮められないことを理解しているかを評価する。(記述分析・ペーパーテスト)	閉じ込めた水を押し縮めても、空気と違って体積が変わらないことを理解し、空気と比べながら図などで説明している。	空気を閉じ込めた注射器と水を閉じ込めた注射器を用意し、両方を同時に押すところを観察させる。
まとめ～ つなげよう	6 ・ 予備	まとめノート／たしかめよう／活用しよう つなげよう(東京ドームの屋根)	態	○	態②／閉じ込めた空気や水の性質について学んだことを学習や生活に生かそうとしているかを評価する。(行動観察・発言・記述分析)	空気や水の性質を利用してものづくりをしたり、空気や水の性質を利用したものを日常生活の中に見つけ、説明したりしようとしている。	空気や水を利用したものづくりの例や日常生活の中の具体物を紹介する。

6. ヒトの体のつくりと運動

10月第3週～, 配当6時間+予備1時間

【学習指導要領との関連】B(1)人の体のつくりと運動 ア(7)(イ), イ

<p>【単元の目標】 骨や筋肉のつくりとはたらきに着目して、それらに関係づけて、ヒトやほかの動物の体のつくりと運動とのかかわりを調べる活動を通して、それらについての理解をはかり、観察、資料調べなどに関する技能を身につけるとともに、おもに既習の内容や生活経験をもとに、根拠のある予想や仮説を発想する力や生き物を愛護する態度、主体的に問題解決しようとする態度を育成する。</p>	<p>【単元の評価規準】 知①/ヒトの体には骨と筋肉があることを理解している。 知②/ヒトが体を動かすことができるのは、骨、筋肉の働きによることを理解している。 知③/ヒトやほかの動物について、器具や機器などを正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果をわかりやすく記録している。</p>	<p>思①/ヒトやほかの動物について、既習の内容や生活経験をもとに、根拠のある予想や仮説を発想し、表現するなどして問題解決している。 思②/ヒトやほかの動物について、観察、資料調べなどを行い、得られた結果をもとに考察し、表現するなどして問題解決している。</p>	<p>態①/ヒトやほかの動物についての事象・現象に進んでかかわり、他者とかがわりながら問題解決しようとしている。 態②/ヒトやほかの動物について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。</p>
--	--	---	--

次	時	指導計画	重点	記録	評価規準（B基準）と評価手法	十分満足できる状況の例	B基準に達していない場合の手立て
単元導入	1	ヒトの体のつくりと運動 ヒトや動物の体は、どんなつくりをしていて、どんなしくみで動いているのだろうか。	思	○	思①/運動しているときのヒトの体の動きから、腕の中の骨がどのようにになっているか予想や仮説を発想し、表現しているかを評価する。(発言・記述分析)	運動しているときのヒトの体の動きから、腕の中の骨がどのようにになっているか予想をもち、自分の考えを図や文を使って表現している。	自分の腕や手を触ったり動かしたりする活動をさせ、腕の中の骨がどうなっているかを考えさせる。
第1次	2	体を曲げられるところ 体の中で曲げられるところは、どこにあるのだろうか。 観察1 体を曲げられるところ	知	○	知③/自分の体を触ったり、骨の模型や映像などの資料を活用したりして、体を曲げられるところを調べているかを確認する。(行動観察・記録分析)	自分の体を触って曲げられるところを見つけたり、骨の模型や映像などの資料を活用したりして、体を曲げられるところを詳しく調べている。	自分の体の曲げられるところにシールを貼って、曲げられるところを意識できるようにする。
第2次	3	体の動くしくみ ヒトは、どのように体を動かしているのだろうか。 観察2 体の動くしくみ	知	○	知①②/ヒトの体には骨と筋肉があり、ヒトが体を動かすことができるのは、骨や筋肉のはたらきによることを理解しているかを評価する。(記述分析・ペーパーテスト)	ヒトが体を動かすときの、骨や筋肉の動きや変化を正しくとらえ、体の動くしくみを理解している。	腕を曲げた状態と、伸ばした状態のイラストを用意し、腕を動かしたときの筋肉のようすをかき込ませる。
第3次	4 5	動物の体のつくりとしくみ ほかの動物も、ヒトと同じしくみで、体を動かしているのだろうか。 資料調べ1 動物の体のつくりとしくみ	知	○	知③/ほかの動物の体のつくりや、体を動かすしくみについて、資料を活用して調べているかを評価する。(行動観察・記録分析)	ほかの動物の体のつくりや、体を動かすしくみについて、図鑑やインターネットなど様々な方法で詳しく調べている。	図書室の図鑑の活用やインターネットの活用など、調べる方法を伝える。
まとめ～つなげよう	6 予備	まとめノート/たしかめよう/活用しよう つなげよう(いろいろな動物のほね)	態	○	態②/ヒトやほかの動物の体のつくりと運動について、学んだことを学習や生活に生かそうとしているかを評価する。(発言・行動観察・記述分析)	ヒトやほかの動物の体のつくりと運動のかかわりを学んだことから、生命の巧みさを感じ、いろいろな生命を尊重しているようにしている。	動物のレントゲン写真や骨格標本などを準備しておき、ヒトとの違いや巧みさを感じられるようにしておく。

秋の生き物

11月第1週～, 配当4時間

【学習指導要領との関連】B(2)季節と生物 ア(7)(イ), イ

<p>【単元の目標】 動物を探したり植物を育てたりしながら、動物の活動や植物の成長のようすと季節の変化に着目して、それらを関係づけて、身近な動物の活動や植物の成長と環境とのかかわりを調べることを通して、それらについての理解をはかり、観察などに関する技能を身につけるとともに、おもに既習の内容や生活経験をもち、根拠のある予想や仮説を発想する力や生物を愛護する態度、主体的に問題解決しようとする態度を育成する。</p>	<p>【単元の評価規準】※ 知①／動物の活動は、暖かい季節、寒い季節などによって違いがあることを理解している。 知②／植物の成長は、暖かい季節、寒い季節などによって違いがあることを理解している。 知③／身近な動物や植物について、器具や機器などを正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果をわかりやすく記録している。</p>	<p>思①／身近な動物や植物について、既習の内容や生活経験をもち、根拠のある予想や仮説を発想し、表現するなどして問題解決している。 思②／身近な動物や植物について、観察などを行い、得られた結果をもちに考察し、表現するなどして問題解決している。</p>	<p>態①／身近な動物や植物についての事象・現象に進んでかかわり、他者とかかわりながら問題解決しようとしている。 態②／身近な動物や植物について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。</p>
--	---	---	--

※各観点の評価は、「1. 春の生き物」「夏の生き物」「秋の生き物」「冬の生き物」「生き物の1年間」を通して計画している。

次	時	指導計画	重点	記録	評価規準（B基準）と評価手法	十分満足できる状況の例	B基準に達していない場合の手立て
第1次	1 2	生き物のようす ・春や夏と比べて、生き物のようすは、どのようになっているのだろうか。 観察1 季節と生き物のようす	思	○	思①／秋の生き物について、既習の内容や生活経験をもち、根拠のある予想や仮説を発想し、表現しているかを評価する。（発言・記述分析）	秋の生き物について、既習の内容や生活経験をもち、根拠のある予想や仮説を発想し、筋道立てて自分の考えを表現したり、観察計画を具体的に立てたりしている。	夏のころの植物や動物の写真を提示したり、春や夏のころの観察記録を紹介したりする。
			態		態①／秋の生き物に進んでかかわり、他者とかかわりながら、季節による違いを調べようとしているかを確認する。（行動観察・記述分析）	秋の生き物に進んでかかわり、他者とかかわりながら、春や夏の観察経験を生かして、身の回りの生き物のようすを観察し、春や夏のころとの違いを見つけようとしている。	植物の紅葉や熟した実、いろいろなどんぐりなど、特徴的な変化のようすを紹介して、秋の生き物を観察する意欲を高める。
第2次	3	植物を育てよう 春にたねをまいた植物は、秋になりどのように成長しているのだろうか。 観察2 季節と植物の成長	知		知③／植物の成長のようすを調べ、結果をわかりやすく記録しているかを確認する。（行動観察・記録分析）	ヒョウタンなどを育てて、成長のようすやそのときの気温を繰り返し調べ、以前と比べながら結果を図や言葉でわかりやすく記録している。	教科書の写真や記録カードを使って、観察の観点を話し合わせる。
第3次～ つなげよう	4	秋の記録をまとめよう 活動 観察した記録を整理して伝え合おう つなげよう（日本各地の秋）	知	○	知①②／秋になると、動物の動きは鈍くなり、植物は成長が止まったり、実が大きくなったりすることを理解しているかを評価する。（記述分析・ペーパーテスト）	秋になると、動物の動きは鈍くなり、植物は成長が止まったり、実が大きくなったりすることを理解し、夏のようすと比較しながら説明している。	これまでの記録を見直すようにはたらきかけ、生き物のようすと気温や水温の変化との関係を考えさせる。
			態	○	態②／秋の生き物について、学んだことを学習や生活に生かそうとしているかを評価する。（発言・行動観察）	秋の生き物について学んだことを学習や生活に生かそうとし、意欲的にこれからの変化についても考えようとしている。	春や夏のようすと比べ、秋ならではのようすを考えさせる。

7. ものの温度と体積

11月第3週～, 配当8時間+予備1時間

【学習指導要領との関連】A(2)金属, 水, 空気と温度 ア(7), イ

【単元の目標】 空気・水・金属をあたためたり, 冷やしたりしたときの体積の変化に着目して, それらと温度の変化とを関係づけて, 空気・水・金属の温度変化に伴う体積の変化を調べる活動を通して, それらについての理解をはかり, 実験などに関する技能を身につけるとともに, おもに既習の内容や生活経験をもとに, 根拠のある予想や仮説を発想する力や主体的に問題解決しようとする態度を育成する。	【単元の評価規準】 知①/空気・水・金属は, あたためたり冷やしたりすると, それらの体積が変わるが, その程度には違いがあることを理解している。 知②/空気・水・金属の温度と体積について, 器具や機器などを正しく扱いながら調べ, それらの過程や得られた結果をわかりやすく記録している。	思①/空気・水・金属の温度と体積について, 既習の内容や生活経験をもとに, 根拠のある予想や仮説を発想し, 表現するなどして問題解決している。 思②/空気・水・金属の温度と体積について, 実験などを行い, 得られた結果をもとに考察し, 表現するなどして問題解決している。	態①/空気・水・金属の温度と体積についての事物・現象に進んでかかわり, 他者とかかわりながら問題解決しようとしている。 態②/空気・水・金属の温度と体積について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。
--	--	--	---

次	時	指導計画	重点	記録	評価規準 (B基準) と評価手法	十分満足できる状況の例	B基準に達していない場合の手立て
単元導入	1	ものの温度と体積 閉じ込めた空気をあたためると, どうなるのだろうか。	思		思①/閉じ込めた空気をあたためたときについて問題を見いだし, 表現しているかを確認する。(発言・記述分析)	閉じ込めた空気をあたためる活動や日常経験をもとに, 空気の温度と体積について具体的な問題を見いだし, 自分の考えを表現している。	容器に閉じ込めた空気をあたためると, 容器の口についた石けん水の膜や風船が膨らむことを例示し, 体積に着目できるようにする。
第1次	2 3	空気の温度と体積 ・空気は温度によって, 体積が変わるのだろうか。 実験1 温度による空気の体積の変化	思	○	思①/閉じ込めた空気をあたためたときについて, 予想や仮説を発想し, 表現しているかを評価する。(発言・記述分析)	閉じ込めた空気をあたためたとき, 栓が飛び出した理由について予想や仮説を発想し, それを確かめる方法も含めて自分の考えを図や文で表現している。	栓が飛び出すためには, 容器の中の空気がどうなればよいかを考えさせる。
			思	○	思②/空気の温度と体積について, 実験の結果から考察し, 表現しているかを評価する。(発言・記述分析)	空気の温度と体積の変化について, 実験の結果から考察し, 導入の活動で栓が飛び出した理由について自分の考えを表現している。	複数の実験結果を整理し, 空気をあたためると体積が大きくなり, 冷やすと体積が小さくなるという共通性に気づかせる。
			知	○	知①/空気はあたためたり冷やしたりすると, その体積が変わることを理解しているかを評価する。(記述分析・ペーパーテスト)	空気は, あたためると体積が大きくなり, 冷やすと体積が小さくなることを理解し, 導入の活動で栓が飛び出した理由について説明できる。	注射器など, 視覚的に体積の変化がとらえやすいものを使った実験を例示して, 空気の体積変化を確認させる。
			態	○	態①/温度による空気の体積の変化に進んでかかわり, 他者とかかわりながら問題解決しようとしているかを評価する。(発言・行動観察・記述分析)	容器に閉じ込めた空気をあたためたり冷やしたりする活動に進んでかかわり, 他者とかかわりながら, 様々な方法で空気の温度と体積の関係を調べようとしている。	多様な発想を認めるとともに, 「そのとき空気がどうなったといえるかな」などと問いかけ, 空気の温度と体積の関係を調べる意欲をもたせる。
第2次	4 5	水の温度と体積 ・水も空気のように, 温度によって体積が変わるのだろうか。 実験2 温度による水の体積の変化	思		思②/温度による水の体積変化について, 実験の結果から考察し, 表現しているかを確認する。(発言・記述分析)	水をあたためたり冷やしたりしたときの水の体積変化を, 水面の位置をしっかりととらえて, 実験の結果から考察し, 表現している。	はじめの水面の位置と, あたためた後の水面の位置を確認し, フラスコにガラス管をつけた実験装置の図の中に, 水面をかき込ませる。
			知	○	知①/水はあたためたり冷やしたりすると, その体積が変わることを理解しているかを評価する。(記述分析・ペーパーテスト)	水は, あたためると体積が大きくなり, 冷やすと体積が小さくなることを理解し, 水面の位置が上下した理由を説明している。	あたためたり冷やしたりしたときの水面の位置を指でしっかりと確認させ, 水面が上がったということは体積が大きくなったことをとらえさせる。
第3次	6 7	金ぞくの温度と体積 ・金属も, 温度によって体積が変わるのだろうか。 実験3 温度による金ぞくの体積の変化	知	○	知②/加熱器具などを安全に正しく使って, 金属をあたためたり冷やしたりしたときの体積の変化を調べているかを評価する。(行動観察・記録分析)	加熱器具などを安全に正しく使って, 熱した金属が非常に高温になることを理解した上で, 金属をあたためたり冷やしたりしたときの体積の変化を調べている。	加熱器具の使い方を確認させたり, 熱した金属は非常に高温であることを伝えたりする。
			思		思②/温度による金属の体積変化について, 実験の結果から考察し, 表現しているかを確認する。(発言・記述分析)	温度による金属の体積変化が, 空気や水の場合と比較して非常に小さいことをわかりやすくまとめ, 自分の考えを表現している。	玉が輪を通らなくなったということは, 玉が大きくなった, つまり, 金属の体積が大きくなったことを確認する。
			知	○	知①/金属は, あたためたり冷やしたりすると, その体積が変わるが, その変化は空気や水より小さいことを理解しているかを評価する。(記述分析・ペーパーテスト)	金属はあたためると体積が大きくなり, 冷やすと体積が小さくなるが, その変化は空気や水よりも小さいことを理解し, 空気・水・金属によって性質が異なることも理解している。	空気・水・金属の温度による体積変化を, 教科書p.121も活用しながら確認する。
まとめ～つなげよう	8 予備	まとめノート/たしかめよう/活用しよう つなげよう(火災報知器のしくみ)	態	○	態②/温度によるものの体積変化について, 学んだことを学習や生活に生かそうとしているかを評価する。(発言・行動観察・記述分析)	温度によるものの体積変化を利用してものづくりをしたり, 温度によるものの体積変化を利用したものを日常生活の中に見つけ, 説明したりしようとしている。	温度によるものの体積変化を利用したものづくりの例や, 日常生活の中の具体物を紹介する。

冬の夜空

1月第2週, 配当2時間

【学習指導要領との関連】B(5)月と星 ア(イ)(ウ), イ

<p>【単元の目標】 星の位置の変化や時間の経過に着目して、それらに関係づけて、星の特徴を調べる活動を通して、それらについての理解をはかり、観察に関する技能を身につけるとともに、おもに既習の内容や生活経験をもとに、根拠のある予想や仮説を発想する力や主体的に問題解決しようとする態度を育成する。</p>	<p>【単元の評価規準】※ 知①／月は日によって形が変わって見え、1日のうちでも時刻によって位置が変わることを理解している。 知②／空には、明るさや色の違う星があることを理解している。 知③／星の集まりは、1日のうちでも時刻によって、並び方は変わらないが、位置が変わることを理解している。 知④／月や星の特徴について、器具や機器などを正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果をわかりやすく記録している。</p>	<p>思①／月や星の特徴について、既習の内容や生活経験をもとに、根拠のある予想や仮説を発想し、表現するなどして問題解決している。 思②／月や星の特徴について、観察などを行い、得られた結果をもとに考察し、表現するなどして問題解決している。</p>	<p>態①／月や星についての事物・現象に進んでかかわり、他者とかかわりながら問題解決しようとしている。 態②／月や星について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。</p>
--	---	--	--

※各観点の評価は、「夏の夜空」「4. 月や星の動き」「冬の夜空」を通して計画している。

次	時	指導計画	重点	記録	評価規準（B基準）と評価手法	十分満足できる状況の例	B基準に達していない場合の手立て
第1次	1 2	<p>冬の夜空 ・冬の星も、明るさや色に違いがあり、時刻とともに、動いていくのだろうか。 観察1 冬の星</p>	態		<p>態①／冬の夜空に輝く星に進んでかかわり、他者とかかわりながら、観察しようとしているかを確認する。(発言・記述分析)</p>	<p>冬の夜空に輝く星に進んでかかわり、他者とかかわりながら、星座や神話を調べたり、星の方位を確かめたりしながら観察しようとしている。</p>	<p>冬の星に関する神話や話題を紹介して、星についての興味・関心を高めるようにする。</p>
			知	○	<p>知②／冬の夜空にも、明るさや色の違う星があり、時刻によって、並び方は変わらないが、位置が変わることを理解しているかを評価する。(記述分析・ペーパーテスト)</p>	<p>夏や秋に夜空の星を観察したときと同じように、冬の夜空にも、明るさや色の違う星があり、時刻によって、並び方は変わらないが、位置が変わることを理解している。</p>	<p>夏や秋に観察したようすから、夏や秋の星の色や明るさが違うことや、並び方は変わらないことなどを思い出させる。</p>

冬の生き物

1月第2週～, 配当3時間

【学習指導要領との関連】B(2)季節と生物 ア(ア)(イ), イ

<p>【単元の目標】 動物を探したり植物を育てたりしながら、動物の活動や植物の成長のようすと季節の変化に着目して、それらに関係づけて、身近な動物の活動や植物の成長と環境とのかかわりを調べることを通して、それらについての理解をはかり、観察などに関する技能を身につけるとともに、おもに既習の内容や生活経験をもとに、根拠のある予想や仮説を発想する力や生物を愛護する態度、主体的に問題解決しようとする態度を育成する。</p>	<p>【単元の評価規準】※ 知①／動物の活動は、暖かい季節、寒い季節などによって違いがあることを理解している。 知②／植物の成長は、暖かい季節、寒い季節などによって違いがあることを理解している。 知③／身近な動物や植物について、器具や機器などを正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果をわかりやすく記録している。</p>	<p>思①／身近な動物や植物について、既習の内容や生活経験をもとに、根拠のある予想や仮説を発想し、表現するなどして問題解決している。 思②／身近な動物や植物について、観察などを行い、得られた結果をもとに考察し、表現するなどして問題解決している。</p>	<p>態①／身近な動物や植物についての事物・現象に進んでかかわり、他者とかかわりながら問題解決しようとしている。 態②／身近な動物や植物について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。</p>
--	--	--	--

※各観点の評価は、「1. 春の生き物」「夏の生き物」「秋の生き物」「冬の生き物」「生き物の1年間」を通して計画している。

次	時	指導計画	重点	記録	評価規準（B基準）と評価手法	十分満足できる状況の例	B基準に達していない場合の手立て
第1次	1	<p>生き物のようす これまでと比べて、生き物のようすは、どのようになっているのだろうか。 観察1 季節と生き物のようす</p>	思	○	<p>思①／冬の生き物について、既習の内容や生活経験をもとに、根拠のある予想や仮説を発想し、表現しているかを評価する。(発言・記述分析)</p>	<p>冬の生き物について、既習の内容や生活経験をもとに、根拠のある予想や仮説を発想し、筋道立てて自分の考えを表現したり、観察計画を具体的に立てたりしている。</p>	<p>これまでの観察記録を見直して、生き物を観察できた場所を思い出させる。</p>
			態		<p>態①／冬の生き物に進んでかかわり、他者とかかわりながら、季節による違いを調べようとしているかを確認する。(行動観察・記述分析)</p>	<p>冬の生き物に進んでかかわり、他者とかかわりながら、これまでの観察経験を生かして、身の回りの生き物のようすを観察し、これまでとの違いを見つけようとしている。</p>	<p>植物の冬芽やロゼット、昆虫の卵など、特徴的な変化のようすを紹介して、冬の生き物を観察する意欲を高める。</p>
第2次	2	<p>植物を育てよう 春にたねをまいた植物は、冬になりどのように変わってきているのだろうか。 観察2 季節と植物の成長</p>	知		<p>知③／植物のようすを調べ、結果をわかりやすく記録しているかを確認する。(行動観察・記録分析)</p>	<p>ヒョウタンなどのようすと気温を調べ、以前と比べながら結果を図や言葉でわかりやすく記録している。</p>	<p>教科書の写真や記録カードを使って、観察の観点を話し合わせる。</p>
第3次～ つなげよう	3	<p>冬の記録をまとめよう 活動 観察した記録を整理して伝えよう つなげよう(日本各地の冬)</p>	知	○	<p>知①②／冬になると、動物は見られなくなり、植物はたねを残して枯れたり、枝に芽をつけて冬を越したりすることを理解しているかを評価する。(記述分析・ペーパーテスト)</p>	<p>冬になると、動物は見られなくなり、植物はたねを残して枯れたり、枝に芽をつけて冬を越したりすることを理解し、これまでのようすと比較しながら説明している。</p>	<p>これまでの記録を見直すようにはたらきかけ、気温や水温の変化との関係を考えさせる。</p>
			態	○	<p>態②／冬の生き物について、学んだことを学習や生活に生かそうとしているかを評価する。(発言・行動観察)</p>	<p>冬の生き物について学んだことを学習や生活に生かそうとし、意欲的にこれからの変化についても考えようとしている。</p>	<p>これまでのようすと比べ、冬ならではのようすを考えさせる。</p>

8. もののあたたまり方

1月第3週～, 配当7時間+予備1時間

【学習指導要領との関連】A(2)金属, 水, 空気と温度 ア(4), イ

【単元の目標】 金属・水・空気を熱したときの熱の伝わり方に着目して, それらと温度の変化とを関係づけて, 金属・水・空気のあたたまり方を調べる活動を通して, それらについての理解をはかり, 実験などに関する技能を身につけるとともに, おもに既習の内容や生活経験をもとに, 根拠のある予想や仮説を発想する力や主体的に問題解決しようとする態度を育成する。	【単元の評価規準】 知①/金属は熱せられた部分から順にあたたまるが, 水や空気は熱せられた部分が移動して全体があたたまることを理解している。 知②/金属・水・空気のあたたまり方について, 器具や機器などを正しく扱いながら調べ, それらの過程や得られた結果をわかりやすく記録している。	思①/金属・水・空気のあたたまり方について, 既習の内容や生活経験をもとに, 根拠のある予想や仮説を発想し, 表現するなどして問題解決している。 思②/金属・水・空気のあたたまり方について, 実験などを行い, 得られた結果をもとに考察し, 表現するなどして問題解決している。	態①/金属・水・空気のあたたまり方についての事物・現象に進んでかかわり, 他者とかかわりながら問題解決しようとしている。 態②/金属・水・空気のあたたまり方について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。
---	--	--	---

次	時	指導計画	重点	記録	評価規準 (B基準) と評価手法	十分満足できる状況の例	B基準に達していない場合の手立て
単元導入	1	もののあたたまり方 ものは, どのようにあたたまっていくのだろうか。	思	○	思①/金属の一部を熱すると, どのようにあたたまっていくのかについて予想や仮説を発想し, 表現しているかを評価する。(発言・記述分析)	金属の一部を熱すると, どのようにあたたまっていくのかについて予想や仮説を発想し, それを確かめる方法も含めて自分の考えを図や文で表現している。	金属棒の絵をかかせ, 金属がどのようにあたたまっていくと思うか矢印などでかき込ませる。
第1次	2 3	金ぞくのあたたまり方 金属はどのようにあたたまっていくのだろうか。 実験1 金ぞくのあたたまり方	知	○	知②/加熱器具などを安全に正しく使って, 金属のあたたまり方を調べているかを評価する。(行動観察・記録分析)	加熱器具などを安全に正しく使い, 熱した金属が非常に高温になることを理解した上で, 金属のあたたまり方を調べている。	加熱器具の使い方を確認させたり, 熱した金属は非常に高温になるため, 取り扱いには注意が必要であることを伝えたりする。
			知	○	知①/金属は熱せられた部分から順にあたたまっていくことを理解しているかを評価する。(記述分析・ペーパーテスト)	金属は熱せられた部分から順にあたたまっていくことを理解し, 図や文を使って説明している。	示温シールの色が変わったところがあたたまったところであることを確認し, 実験結果の記録を見直す。
			態	○	態①/金属のあたたまり方に進んでかかわり, 他者とかかわりながら問題解決しようとしているかを評価する。(発言・行動観察・記述分析)	金属のあたたまり方に進んでかかわり, 他者とかかわりながら, 様々な方法で金属のあたたまり方を調べようとしている。	安全に配慮しながら, なるべく子どもの発想を生かした実験に取り組むことができるように支援し, 金属のあたたまり方を調べる意欲をもたせる。
第2次	4 5	水のあたたまり方 水は, どのようにあたたまっていくのだろうか。 実験2 試験管の中の水のあたたまり方 水は, どのようにして, 全体があたたまっていくのだろうか。 実験3 ビーカーの中の水のあたたまり方	知	○	知②/水のあたたまり方を調べ, 結果をわかりやすく記録しているかを評価する。(行動観察・記録分析)	水のあたたまり方を調べ, 底を熱したときと, 水面近くを熱したときの違いに着目して, その過程や結果を記録している。	示温インクの色が変わったところがあたたまったところであることを確認し, 色の変化に着目して記録させる。
			思	○	思②/水のあたたまり方について, 実験の結果から考察し, 表現しているかを評価する。(発言・記述分析)	示温インクの色の変化や動きと水のあたたまり方を関係づけて考察し, 自分の考えを図や文を使って表現している。	示温インクの色が変化したところがあたたまったところで, その動きが水の動きであることを再度確認する。必要に応じて, 教科書p.143の別の方法のように, 水の動きだけに注目できる実験を行い, 確認する。
			知	○	知①/水はあたためられた部分が移動して全体があたたまることを理解しているかを評価する。(発言・記述分析・ペーパー分析)	水はあたためられた部分の上へ動いて全体があたたまっていくことを理解し, 金属のあたたまり方との違いを明確にしながらか説明している。	示温インクを使った実験を提示し, 色が変わった部分があたたまった部分で, その部分が上へ移動することを確認する。
第3次	6	空気のあたたまり方 空気は, どのようにあたたまっていくのだろうか。 実験4 空気のあたたまり方	思	○	思②/空気のあたたまり方について, 実験の結果から考察し, 表現しているかを評価する。(発言・記述分析)	部屋の空気の温度や線香の煙の動き方と空気のあたたまり方を関係づけて考察し, 自分の考えを図や文を使って表現している。	電熱器の上では, 線香の煙が勢よく上へ動いていることを確認し, 空気のあたたまり方を考えさせる。
			知	○	知①/空気は, あたためられた部分が移動して, 全体があたたまることを理解しているかを評価する。(記述分析・ペーパーテスト)	空気は, 水と同じように, あたためられた部分の上へ動いて, 全体があたたまっていくことを, 金属のあたたまり方との違いも含めて理解している。	金属や水の実験結果も見直し, 空気のあたたまり方が水のあたたまり方と似ていることを確認する。
まとめ～つなげよう	7 予備	まとめノート/たしかめよう/活用しよう つなげよう(あたためられた空気で大空へ)	態	○	態②/もののあたたまり方について, 学んだことを学習や生活に生かそうとしているかを評価する。(発言・行動観察・記述分析)	もののあたたまり方について学んだことを学習や生活に生かしたり, 身の回りから探したりして, ものがあたたまる現象を見直そうとしている。	教科書p.147を活用してもののあたたまり方を確認し, 教科書p.149などを例に挙げながら日常生活の中の具体物を紹介する。

9. 水のすがた

2月第2週～, 配当7時間+予備1時間

【学習指導要領との関連】A(2)金属, 水, 空気と温度 ア(ウ), イ

【単元の目標】 水の状態に着目して, 温度の変化と関係づけて, 水の状態の変化を調べる活動を通して, それらについての理解をはかり, 実験などに関する技能を身につけるとともに, おもに既習の内容や生活経験をもちに, 根拠のある予想や仮説を発想する力や主体的に問題解決しようとする態度を育成する。	【単元の評価規準】 知①/水は, 温度によって水蒸気や氷に変わることを, また, 水が氷になると体積が増えることを理解している。 知②/水の状態変化について, 器具や機器などを正しく扱いながら調べ, それらの過程や得られた結果をわかりやすく記録している。	思①/水の状態変化について, 既習の内容や生活経験をもちに, 根拠のある予想や仮説を発想し, 表現するなどして問題解決している。 思②/水の状態変化について, 実験などを行い, 得られた結果をもちに考察し, 表現するなどして問題解決している。	態①/水の状態変化についての事物・現象に進んでかかわり, 他者とかかわりながら問題解決しようとしている。 態②/水の状態変化について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。
---	--	--	---

次	時	指導計画	重点	記録	評価規準 (B基準) と評価手法	十分満足できる状況の例	B基準に達していない場合の手立て
単元導入	1	水のすがた 温度によって水はどのように姿を変えるのだろうか。	思	○	思①/水が氷になったり, 水を熱すると湯気や泡が出たりする現象について予想や仮説を発想し, 表現しているかを評価する。(発言・記述分析)	水が氷になったり, 水を熱すると湯気や泡が出たりする現象について予想や仮説を発想し, それを確かめる方法も含めて自分の考えを図や文で表現している。	前単元での学習や生活経験の中で, 湯気や氷を見た経験を想起させ, 湯気や氷はどんなときに見ることができるのかを考えさせる。
第1次	2 ・ 3 ・ 4	水を熱したときの変化 水を熱し続けると, どうなるのだろうか。 実験1 水を熱したときの変化 水を熱したときに出てきた泡は, 何だろうか。 実験2 水を熱したときのあわの正体	知	○	知②/加熱器具などを安全に正しく使って, 熱したときの水の様子を調べ, わかりやすく記録しているかを評価する。(行動観察・記録分析)	実験装置を正しく組み立て, 加熱器具などを安全に正しく使って, 熱したときの水の様子を調べ, わかりやすく記録している。	加熱器具やスタンドの正しい使い方を確認させる。 前時の実験の結果を確認し, 体積変化に着目させる。また, 沸騰したときに出る泡を袋に集めると, 袋の中に水がたまったことにも着目させて, 泡の正体が水であることを考察できるようにする。
第2次	5	水を冷やしたときの変化 水を冷やし続けると, どうなるのだろうか。 実験3 水を冷やしたときの変化	知	○	知②/水を冷やし続けたときの温度やようすをわかりやすく記録しているかを確認する。(行動観察・記録分析)	水を冷やし続けたときの水温の変化について, 凍り始めた温度を正確に測定して表に記録したり, わかりやすく折れ線グラフに表したりしている。	0℃より低い温度の読み方や, 折れ線グラフのかき方を確認する。 水を冷やしたときの温度変化の折れ線グラフや, 冷やす前後の試験管のようすを確認させ, 凍り始める温度と体積増加について考察できるようにする。
第3次	6	水の3つのすがた 水は温度によってどのように姿を変えたのだろうか。	知	○	知①/水が温度によって水蒸気や氷に変わることや, 水が氷になると体積が増えることを理解しているかを評価する。(記述分析・ペーパーテスト)	液体の水は, 温度によって気体である水蒸気や, 固体である氷などに姿を変えることを理解し, 水の状態変化と温度を関係づけて説明できる。	気体・液体・固体の概念を, 水以外のものを例に挙げて説明し, 理解を促す。
まとめ～つなげよう	7 ・ 予備	まとめノート/たしかめよう/活用しよう つなげよう(じょう気機関車, 流氷)	態	○	態②/温度による水の状態変化について学んだことを学習や生活に生かそうとしているかを評価する。(行動観察・発言)	温度による水の状態変化について学んだことを学習や生活に生かそうしたり, 水が温度によって姿を変えたものを, 身の回りから探して, 水が温度によって姿を変えた現象を説明したりしようとしている。	凍った水たまりや風呂の湯気など, 身の回りにある, 水が温度によって姿を変えたものを考えさせる。

10. 水のゆくえ

3月第1週～, 配当5時間+予備1時間

【学習指導要領との関連】B(4)天気の様子 ア(イ), イ

<p>【単元の目標】</p> <p>水のゆくえに着目して、それらと水の状態変化とを関係づけて、自然界の水のようすを調べる活動を通して、それらについての理解をはかり、実験などに関する技能を身につけるとともに、おもに既習の内容や生活経験をもとに、根拠のある予想や仮説を発想する力や主体的に問題解決しようとする態度を育成する。</p>	<p>【単元の評価規準】</p> <p>知①/水は、水面や地面などから蒸発し、水蒸気になって空気中に含まれていくこと、また、空気中の水蒸気は、結露して再び水になって現れることがあることを理解している。</p> <p>知②/自然界の水のようすについて、器具や機器などを正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果をわかりやすく記録している。</p>	<p>思①/自然界の水のようすについて、既習の内容や生活経験をもとに、根拠のある予想や仮説を発想し、表現するなどして問題解決している。</p> <p>思②/自然界の水のようすについて、実験などを行い、得られた結果をもとに考察し、表現するなどして問題解決している。</p>	<p>態①/自然界の水のようすについての事物・現象に進んでかわり、他者とかわりながら問題解決しようとしている。</p> <p>態②/自然界の水のようすについて学んだことを学習や生活に生かそうとしている。</p>
--	---	---	---

次	時	指導計画	重点	記録	評価規準（B基準）と評価手法	十分満足できる状況の例	B基準に達していない場合の手立て
単元導入	1	水のゆくえ 消えた水たまりの水は、どこにいったのだろうか。	思		思①/水たまりの水のゆくえについて問題を見だし、表現しているかを確認する。(発言・記述分析)	雨がやんだ後の水たまりのようすや日常経験をもとに、水たまりの水のゆくえについて具体的な問題を見だし、自分の考えを表現している。	雨の日にできた水たまりが、いつの間になくなっていくことを思い出させ、水が消えてしまったように見える現象に着目させる。
第1次	2 3	消えた水のゆくえ ・ 水は沸騰しなくても、蒸発していくのだろうか。 実験1 空気中に出ていく水	思	○	思①/水は熱しなくても、蒸発するかについて予想や仮説を発想し、表現しているかを評価する。(発言・記述分析)	水は熱しなくても、蒸発して空気中に出ていくかについて予想や仮説を発想し、それを確かめる方法を含めて、自分の考えを図や文で表現している。	前時に扱った洗濯物が乾くようすを思い出させ、洗濯物は100℃まで熱しないと乾かないのかを考えさせる。
			知		知②/水の自然蒸発のようすを調べ、結果をわかりやすく記録しているかを確認する。(行動観察・記録分析)	水の自然蒸発のようすを調べ、容器にふたをしたときと、していないときの違いに着目して、その結果をわかりやすく記録している。	容器にふたをしたときと、していないときの水の量に着目し、記録させる。
			知	○	知①/水は、水面や地面などから蒸発し、水蒸気になって空気中に含まれていくことを理解しているかを評価する。(記述分析・ペーパーテスト)	水は、水面や地面などから蒸発し、水蒸気になって空気中に含まれることを理解し、水たまりがなくなったことや洗濯物が乾く理由を説明している。	加熱器具で水を熱しているわけではないことから、2～3日後に容器の水が減っていれば、熱しなくても水が蒸発したといえることに気づかせる。
			態	○	態①/空気中に出ていく水に進んでかわり、他者とかわりながら問題解決しようとしているかを評価する。(行動観察・発言)	空気中に出ていく水に進んでかわり、他者とかわりながら、様々な方法で消えた水のゆくえを調べようとしている。	多様な発想を認めるとともに、「そのとき水がどうなったといえるかな」などと問いかけ、消えた水のゆくえを調べる意欲をもたせる。
第2次	4	空気中の水 空気中から水を取り出すことができるのだろうか。 実験2 空気中にある水	思	○	思②/空気中から水を取り出せるかについて、実験の結果から考察し、表現しているかを評価する。(発言・記述分析)	ピーカーの外側に水滴がつくことと、ピーカーの水が減っていないことを関係づけて考察し、水滴は空気中の水蒸気が冷やされて水になったものであることを、自分の言葉で表現している。	氷水を入れる前のピーカーには水滴がついていなかったこと、ピーカーの水は減っていないことを確認し、水滴が空気中から出てきたものであることを考察できるようにする。
			知	○	知①/空気中の水蒸気は、結露して再び水になって現れることがあることを理解しているかを評価する。(記述分析・ペーパーテスト)	空気中の水蒸気は結露して再び水になって現れることがあることを理解し、わかりやすく説明しようとしている。	風呂の湯気や蒸し暑い夏の日を思い出させ、空気中には水蒸気があり、その水蒸気が冷やされて水になることを確認させる。
まとめ～つなげよう	5 予備	まとめノート/たしかめよう/活用しよう つなげよう(きりにうかぶ城, 自然の中をめぐる水)	態	○	態②/水のゆくえについて学んだことを学習や生活に生かそうとしているかを評価する。(行動観察・発言)	水のゆくえについて学んだことを学習や生活に生かそうしたり、水の姿が変わる現象を、身の回りから見つけて説明したりしようとしている。	教科書p.176～177の現象を学習とつなげて話し合わせる。

生き物の1年間

3月第3週, 配当2時間

【学習指導要領との関連】B(2)季節と生物 ア(7)(イ), イ

<p>【単元の目標】 1年間調べてきた生物のようすを振り返りながら, 動物の活動や植物の成長のようすと季節の変化に着目して, それらを関係づけて, 身近な動物の活動や植物の成長と環境とのかかわりを調べることを通して, それらについての理解をはかり, 資料調べなどに関する技能を身につけるとともに, おもに既習の内容や生活経験をもとに, 根拠のある予想や仮説を発想する力や生物を愛護する態度, 主体的に問題解決しようとする態度を育成する。</p>	<p>【単元の評価規準】※ 知①/動物の活動は, 暖かい季節, 寒い季節などによって違いがあることを理解している。 知②/植物の成長は, 暖かい季節, 寒い季節などによって違いがあることを理解している。 知③/身近な動物や植物について, 器具や機器などを正しく扱いながら調べ, それらの過程や得られた結果をわかりやすく記録している。</p>	<p>思①/身近な動物や植物について, 既習の内容や生活経験をもとに, 根拠のある予想や仮説を発想し, 表現するなどして問題解決している。 思②/身近な動物や植物について, 観察などを行い, 得られた結果をもとに考察し, 表現するなどして問題解決している。</p>	<p>態①/身近な動物や植物についての事物・現象に進んでかかわり, 他者とかかわりながら問題解決しようとしている。 態②/身近な動物や植物について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。</p>
---	---	--	---

※各観点の評価は, 「1. 春の生き物」「夏の生き物」「秋の生き物」「冬の生き物」「生き物の1年間」を通して計画している。

次	時	指導計画	重点	記録	評価規準 (B基準) と評価手法	十分満足できる状況の例	B基準に達していない場合の手立て
第1次	1 2	生き物の1年間 ・生き物は, 1年間どのようにくらしてきたのだろうか。 資料調べ1 生き物の1年間のようす	態		態①/季節と生き物のようすに進んでかかわり, 他者とかかわりながら問題解決しようとしているかを確認する。(行動観察・記述分析)	季節と生き物のようすに進んでかかわり, 他者とかかわりながら, 季節ごとの生き物の特徴を調べようとしている。	これまでの観察記録を見直して, 生き物は1年間どのようにくらしているのか, 生命をつなぐためにどのような工夫をしているのかに着目させる。
			知	○	知③/1年間の観察記録を生き物ごとに整理し, 季節と生き物のようすの関係について, わかりやすくまとめているかを評価する。(行動観察・記録分析)	1年間の観察記録を見直し, 季節と生き物のようすの関係について, 図や表などを使って, わかりやすくまとめている。	季節の変化の軸を意識して, 生き物のようすをまとめさせる。
			知		知①②/動物の活動や植物の成長は, あたたかい季節, 寒い季節などによって違いがあることを理解しているかを確認する。(記述分析・ペーパーテスト)	季節による動物の活動や植物の成長の違いを理解して, それぞれ生命をつないでいることを説明できる。	教科書の「生き物の1年間」のまとめを見せ, あたたかい季節と寒い季節の生き物のようすを確認させる。
			態	○	態②/季節と生き物のようすについて, 学んだことを学習や生活に生かそうとしているかを評価する。(発言・行動観察)	季節と生き物のようすについて, 学んだことを学習や生活に生かそうとし, 命のサイクルについて考えようとしている。	気温と生き物のようすを関係づけられるよう, 気温のグラフと季節ごとの生き物の観察カードを示す。